

■第25回歴史地震研究会のお知らせ(第3報)

2008年9月9日修正第3版発行

目次

日程の概略
地図と交通案内
プログラム

日程の概略

9月13日(土)

9:30 開場、受付開始

10:30-17:00 研究発表会1日目(於:産業技術総合研究所 共用講堂)

18:00-20:00 懇親会(於:ホテルグランド東雲、送迎バスあり)

9月14日(日)

10:00-16:15 研究発表会2日目(於:産業技術総合研究所 共用講堂)

16:30-18:00 総会(於:産業技術総合研究所 共用講堂)

9月15日(月)

9:50- 見学会(於:国土地理院 地図と測量の科学館)

集合場所:地図と測量の科学館入り口

※発表会会場の受付にて参加費1,000円(事前に申し込まれた方は他に弁当代、懇親会費)をお支払い願います。予稿集をお渡しいたします。なお、弁当と懇親会の申し込みは既に締め切りました。

地図と交通案内

○大会会場(産業技術総合研究所共用講堂)

東京方面からの主な交通手段は、常磐線、つくばエクスプレス、高速バス(JR東日本と関東鉄道の共同運行)があります。

交通手段	長所	短所
常磐線 (最寄り駅は荒川沖駅)	最寄り駅までは時間が計算できる	最寄り駅から産総研までの交通の便が悪い
つくばエクスプレス (最寄り駅はつくば駅)	最寄り駅までは時間が計算できる	最寄り駅から産総研までの交通の便が悪い
高速バス (東京駅八重洲口発)	乗り換えなしで産総研の側まで来られる 本数はそこそこ(最頻で20分に1本)	時間が計算しにくい(事故/工事渋滞に巻き込まれると30分は遅れる)

常磐線を利用する場合

荒川沖駅西口から学園並木経由つくばセンターあるいは筑波大学中央行きのバスに乗車、並木二丁目にて下車。バスの頻度は30分に1本程度で、所要時間は20分弱。

荒川沖駅からのバスの時刻表

土休日用(<http://i-bus.web.infoseek.co.jp/ibaraki/jikoku-joban/arakawaoki.html#holiday>)

つくばエクスプレスを利用する場合

つくば駅を降りてすぐのつくばセンターからバス(関東鉄道バス)をご利用ください。4番乗り場(つくばセンターの乗り場案内は次ページにあります)から学園並木経由の荒川沖駅あるいは阿見中央公民館行きのバスに乗車、並木二丁目にて下車。両方を合わせて30分に1本程度の頻度。所要時間は10分程度。

つくばセンターからのバスの時刻表

・土休日用(<http://i-bus.web.infoseek.co.jp/ibaraki/jikoku-shitetsu/tsukuba-c2.html#track4>)

東京駅発の高速バスを利用する場合

バスは八重洲南口3番乗り場から出ます。バス乗り場の位置は <http://www.kantetsu.co.jp/bus/highway/map/tokyo/map-tokyo.html>を参照。並木二丁目にて下車。

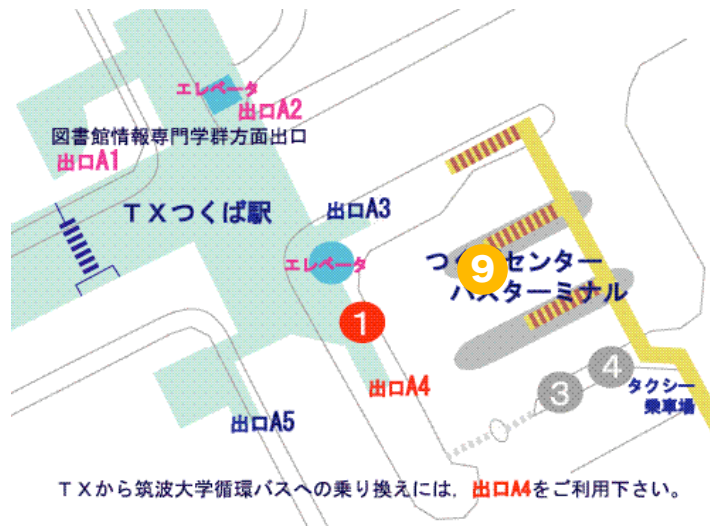
・東京駅からのバスの時刻表(<http://www.kantetsu.co.jp/bus/highway/center/jikoku.pdf>)。

※並木二丁目のバス停から会場の共用講堂までは徒歩7-8分(約500 m)ほどです。地図は次ページを参照。

<産総研来所時のご注意 & ご協力のお願い>

- ・産総研では現在入構チェックを行っているため、正門守衛所の受付にて来客名簿への記載をお願いすることがあります。記入へのご協力をお願いいたします。
- ・自家用車で来所はご遠慮願います。

- つくばセンターの乗り場案内
数字は乗り場の番号
- 3: 下妻行き(国土地理院方面)
- 4: 荒川沖駅、阿見中央公民館行き(産業技術総合研究所方面)
- 9: つくばサイエンスツアーバス(国土地理院方面)



筑波大学のサイト (http://www.tsukuba.ac.jp/map/access/bus_tukuba.html) の地図に加筆

○講演会会場(産業技術総合研究所共用講堂)



- 懇親会会場(ホテルグランド東雲)
大会会場からは送迎バスがあります。

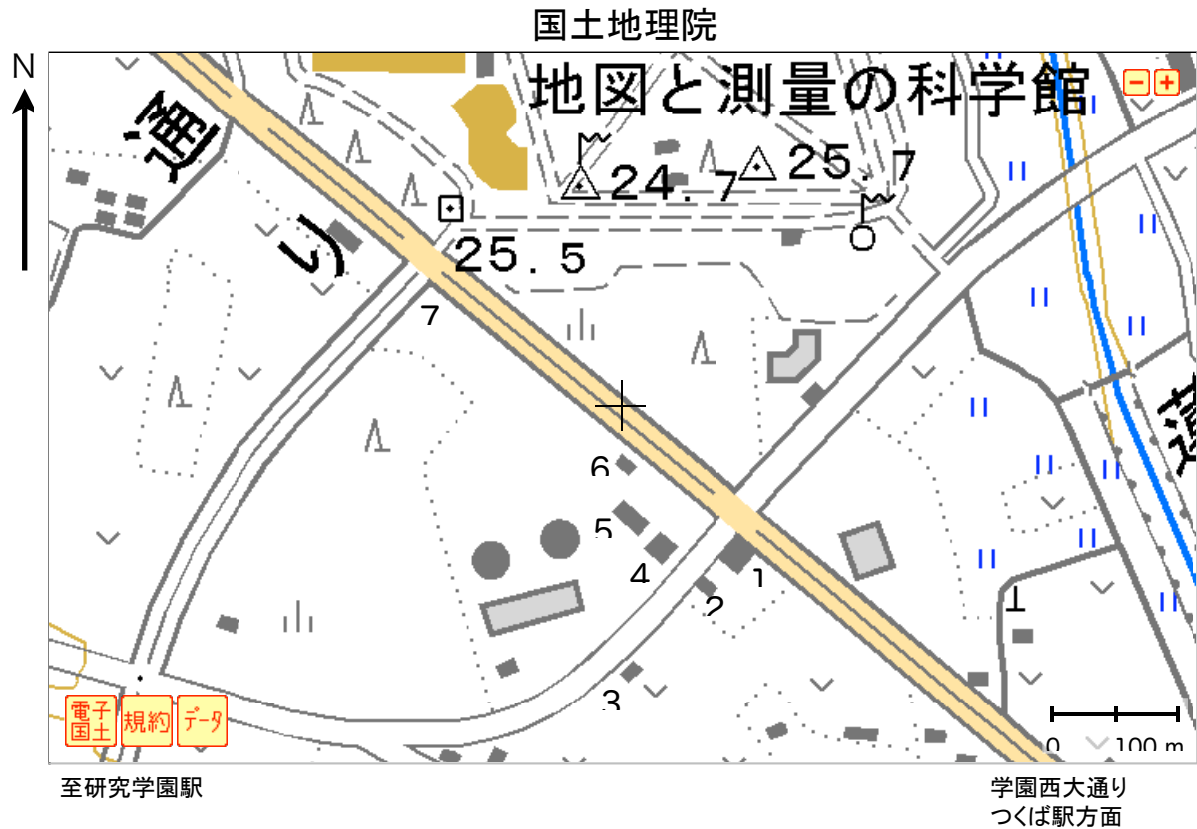


赤丸印のところが懇親会会場(ホテルグランド東雲)です。
つくばエクスプレスのつくば駅(つくばセンター)までは徒歩10分ぐらいです。

- ホテルの住所・電話番号
〒305-0034
茨城県つくば市小野崎488-1
電話番号:029-856-2211

○見学会(国土地理院 地図と測量の科学館)

国土地理院 地図と測量の科学館での企画展「地図に見る関東地震」を見学し、講演を聴講します。
地図と測量の科学館は入場無料です。
下記の交通案内を参考に企画展会場に直接向かってください。
集合時間は9時50分、集合場所は地図と測量の科学館の入り口とします。



<交通案内>

つくば駅(つくばセンター)より

- ・つくばサイエンスツアーバス(北回り)

つくばセンター9:30 → 国土地理院9:39

※市内の研究所を循環するバスで、乗り降り自由で500円(1日有効)

詳細は<http://www.i-step.org/tour/bustour/index.htm>をご覧ください。

- ・関東鉄道バス(下妻行き)

つくばセンター9:20 → 国土地理院9:30

※つくばセンターでは3番乗り場です。

- ・タクシー

約10分で、料金は1500円ほど。

<食堂リスト:地図中の番号に対応>

- 1:フライングガーデン(ハンバーグを中心とした洋食)
- 2:和食ダイニングかせえ
- 3:貴族の森(洋食中心のファミリーレストラン)
- 4:ばんどろ太郎(和食中心)
- 5:小樽食堂(飲み屋:午後5時以降営業)
- 6:こだわりラーメンゆきむら亭
- 7:セブンイレブン

プログラム

○9月13日(土) 研究発表会1日目・懇親会

9:30 開場・受付開始

10:30～12:00 現象、被害と対応(座長:植竹富一、西山昭仁 時計係:諸井孝文)

都司嘉宣

安政東海・南海地震(1854)に伴う日月異常、及び火柱現象について

西山昭仁

幕末期の京都における災害対応—伊賀上野地震(1854年)と元治大火(1864年)を中心に—

白石睦弥

寛保津波の被害と北方諸藩の対応

林能成・木村玲欧・大原祐一・荒川智也

三重県南部における1944年東南海地震被災体験談の収集

木村玲欧・林能成

個人の被災体験を教訓化し防災教育教材にする試み～1944年東南海地震・1945年三河地震を事例として

今村隆正・角谷ひとみ・大石雅之・高田郁

地震に備えて私たちができること

13:00～14:30 ポスターセッション

桜井貴子

皇極紀の青い霧と鶴見火山の活動

今村隆正・大石雅之・角谷ひとみ

日本の大規模崩壊は地震でどのくらい発生しているのか

上月康則・田邊 晋・井若 和久・栗原 美波・山中 亮一・村上 仁士

徳島県の地震・津波碑とその管理について

小野友也・都司嘉宣

元禄関東地震(1703)の津波記録、地震記録、および震度分布にもとづく断層モデルの考察

遠藤恵・小山真人

自然現象記録媒体としての沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析

高野和友・木股文昭

測地データによる1945年三河地震断層モデルの再検討

木股文昭・田中和重好・高橋誠

三重県錦におけるオンサイト型津波避難システムとその歴史・科学的背景

榎本祐嗣・安田英典

地震津波発光を伴った津波巨大化のメカニズムについての一考察—1946年南海地震津波史料から—

松浦律子・中村操・唐鎌郁夫

江戸時代の歴史地震の震源域・規模の系統的検討作業-安政五・六年の石見の地震等10地震について

14:45～17:00 津波・史資料・繰り返し(座長:小松原純子・中村操、時計係:中村操・行谷祐一)

羽鳥徳太郎

三陸沖津波による遡上高の地域偏差

羽鳥徳太郎

十勝沖～千島列島間の津波による三陸沿岸の波高偏差

行谷佑一・佐竹健治・宍倉正展・藤良太郎・竹内仁

フィリピン海プレートの形状を考慮した元禄関東地震の断層モデルと外房の津波

津村建四朗

明治時代の灯台の地震観測資料について

渡邊健

宮崎県の古公文書に遺された明治初期の地震観測状況

中西一郎

『兵庫県神社誌』中の地震記録

石辺岳男・中谷正生・鶴岡弘・島崎邦彦

震源域の地震活動から見た地震の繰り返し挙動

堀高峰・宮崎真一

プレート境界地震の再来間隔の規模依存性とそのモデル化

中西一郎

見直しを要する諸地震

17:30 懇親会会場へ移動

18:00～ 懇親会(於:ホテルグランド東雲)、講演会場から懇親会会場までは送迎バスがあります。

○9月14日(日) 研究発表会2日目・総会

10:00～12:00 地震毎の検討(座長:堀高峰・白石陸弥、時計係:林能成)

河内一男

1670年西蒲原地震は1828年三条地震の一つ前の地震か
菅原正晴・植竹富一

1751年越後・越中の地震の震度分布図に基づく断層モデルの評価
植竹富一・野口厚子・中村操

天明相模の地震および嘉永小田原地震の被害と震源位置

都司嘉宣

文化9年(1812)11月4日神奈川地震について

赤羽貞幸・原田慎太郎・桑原夏美・菅野真司

石灯籠の破損から見た善光寺地震(1847)の震動

中村操

1854年安政東海地震の被害と表層地質

植村善博

1925年サンタバーバラ地震の被害と復興過程

武村雅之・神田克久・阿比留哲生・原弘明

20世紀初頭に九州・南西諸島で発生したやや深発地震の震度分布と地震規模－1909年宮崎県西部地震と1911年喜界島近海地震についての検討－

13:15～14:45 大正関東地震(座長:松浦律子・村岸純、時計係:木村玲欧)

武村雅之

「天災日記」:鹿島龍蔵と関東大震災

諸井孝文・武村雅之

1923年関東地震における死者発生のプロセス(その3)

北原糸子

「関東大震災・地図と写真のデータベース」作成にあたって

王京

日本における災害航空写真の登場について

西田幸夫

関東大震災における火災延焼と避難について

井上公夫

関東地震(1923)時の震災地応急測図原図と土砂災害

—休憩—

15:00～16:15 地形・地質からの検討(座長:行谷祐一)

宍倉正展・越後智雄・行谷佑一

能登半島北西部の隆起生物遺骸群集に記録された最近1000年間の地震履歴

村岸純

房総半島における元禄関東地震時の地殻変動とその後の沈降運動

島崎邦彦・金幸隆・千葉崇・石辺岳男・都司嘉宣・岡村眞・松岡裕美・行谷佑一・佐竹健治・今井健太郎・泊次郎

三浦半島小網代湾干潟の津波堆積物

藤原治・平川一臣・阿部恒平・入月俊明

伊豆半島南端の入間に伝承された“津波堆積物”の掘削調査

小松原純子・藤原治・高田圭太・澤井祐紀・タン ティン アオン・鎌滝孝信

東海道白須賀宿付近の堆積物に記録された歴史時代の津波と高潮

16:30～18:00 総会

○9月15日(月) 見学会

国土地理院 地図と測量の科学館での企画展「地図に見る関東地震」を見学するとともに講演を聴講します。地図と測量の科学館は入場無料です。4ページの交通案内を参考に企画展会場に直接向かってください。集合時間は9時50分、集合場所は地図と測量の科学館の入り口とします。